



ぎおんぼら

平成30年7月12日発行

発行者：谷田部 二三子

- 目指す学校像
- 明るく活力のある学校
 - 学び合う楽しい学校
 - 一人一人が目標に向かって精一杯頑張る学校
 - 保護者・地域と連携し、信頼される学校



授業参観、お世話になりました 楽しく充実した夏休みを！！

7月4日の授業参観、懇談会には、暑い中、たくさんの方に出席していただきました。ありがとうございました。子どもたちは、自分の頑張っている姿を大好きな家族に見ていただきたいと、張り切っていました。特に1、2年生の保護者の皆様には、4月の授業参観からこの2か月半のうちに、子どもたちが大きく成長したことを感じていただけたことと思います。もうすぐ夏休み。子どもたちが元気で充実した夏休みを過ごせるよう、よろしくお祈りします。

～「ふわふわことば」で、もっともっと

「誰もが安心して過ごせる居心地の良いクラス」にして夏休みを迎えよう～

7月5日の児童集会で、『ふわふわことば』と『チクチクことば』について話をしました。子どもたちの言葉遣いが気になる、相手に言われた言葉で心が傷ついている子がいるという話を、学級担任などから何度も耳にしたからです。

ご存じの通り、『ふわふわことば』は、「ありがとう。いいね。すてき。ドンマイ。すごいね。上手。嬉しいよ。」など、言われた人も周囲の人も温かい気持ちになれる言葉です。『チクチクことば』は、「ばか。死ぬ。じゃま。うざい。きもい。下手。変な人。」など、相手だけでなく周りで聞いている人も嫌な気持ち、悲しい気持ちになる言葉です。

言葉には、その人の気持ちだけでなく、物の考え方や人格などが表れます。『ふわふわことば』を使っているうちに、人は優しい穏やかな気持ちになりますし、他人の良いところが見えるようになってきます。反対に、『チクチクことば』ばかり使っていると、心の中もチクチクと尖ったものになり、人の悪いところばかり目に付くようになってくるものです。

ある講演会での講師の話。その人は我が子をしっかりと育てたいという思いが強すぎて、子どもが失敗するたび「バカ！」と言っていたそうです。子どもは失敗を恐れる子になり、その反省から、言わずに我慢しようと思つたものの、できるまでに3ヶ月もかかったとか。

言葉を大切にしてほしいと思います。子どもたちが良い言葉を使う、それが習慣化されるよう、ご家庭でも心がけていただきたいと思います。



私が見つけた「祇園小のここがステキ！！」⑤

下級生に優しい上級生～プレイタイムで

祇園小には、ロング昼休みに1～6年生が縦割り班ごとに遊ぶ「プレイタイム」があります。異年齢交流を通して、上級生には下級生に対する思いやりの心を育み、下級生には上級生に対する憧れの気持ちを育むことを目指しています。

6月21日のプレイタイムでは、ドッジボールやケイドロ、中線踏みなどが多かったようですが、特にドッジボールでは、上級生が取ったボールを下級生に投げさせてやったり、下級生には優しく当てたりする様子が随所で見られました。

南河内第二中学校区小中一貫教育

9年間を見通した教育活動を進め、子どもたち一人一人の可能性をのびます！！

長期ビジョン 夢と希望をもち、たくましく未来を拓く児童・生徒の育成



中学生とのあいさつ運動

目指す子ども像

〔まなび〕 主体的に考え、学び合いを通して互いに高め合える子ども
 〔こころ〕 思いやりの心をもち、自他を大切にできる子ども
 〔からだ〕 心身の健康に関心をもち、たくましく実践できる子ども
 〔ちいき〕 社会に貢献し、地域に主体的に参画しようとする子ども

〔まなび〕	〔こころ〕	〔からだ〕	〔ちいき〕
基礎基本を定着させ、児童生徒の主体性を引き出します。 ○学力調査の分析と授業改善 ○小中教員相互乗り入れ授業 ○家庭学習の充実 ほか	自他ともに思いやりの心をもって接する児童生徒を育てます。 ○挨拶の日常化と望ましい人間関係づくり ○道徳教育の充実 ○交流活動を通じた自己有用感の育成	心身の健康に対する関心と体力の向上を目指します。 ○正しい姿勢の定着 ○学校栄養職員と連携した食育 ○小中で協力する保健指導	保護者や地域の協力を得て、地域への愛着を育てます。 ○地域ボランティアによる体験活動 ○小中合同クリーン活動 ○地域行事への参加・協力

学校（子ども）と地域（住民）とを結びつけるために

7月10日、第2回学校運営協議会を開催しました。

1 学校からの説明

- (1) 学校評価の項目について
- (2) 小中一貫教育について

- ・下野市小中一貫教育のねらいと、南河内第二中学校区の実践について説明しました。
- ・学校運営協議会が特に関連する〔ちいき〕について、「子どもたちが生まれ育ったこの地域に愛着をもち大切にしようとする気持ちを育てるとともに、ここがより安心安全な地域になるために、様々な人と関わり合えるような取組が必要だ」と思う。例えば、学校支援ボランティアやスクールガードなどを二中学区で組織できないか」と相談しました。委員からは、「地域の人が子どもたちに関心をもち関わることで、温かく安心感のある地域になる。他の2校と互いの取組を共有しながら進めていきたい」とのご意見をいただいた。

2 協議及び取組の様子

- (1) 学校の教育活動への支援について

- ギオンジャー（卒業生の保護者で組織されたボランティア）の主な活動
給食白衣の修繕・夏休みの作品の整理と発送・家庭科の補助・持久走大会の補助などを行っている。（授業の補助は、現保護者の人数が足りない時。）
- 9月の草取りへの参加者を増やすために
参加しやすい日程にする。親子でぜひ参加していただくよう、呼びかける。

- (2) 学校、家庭、地域における教育課題について

- キンボール・ソフトバレーの地域ボランティアによる指導
5・6年生の親子活動でソフトバレーを。キンボールは、夏休み明けに実施する。
- スクールガードの募集
子どもに関心をもってもらう良い機会。ボランティアなので、「やれる時にやれる人が」でよい。ぜひ多くの方に協力していただきたい。緑のベストは、防犯上も効果的なので、着用してほしい。

